



久慈年和
(立憲農民クラブ)

ランドセル等の重量による 低学年児童の健康等への影響は 児童が背負う荷物が過重に ならないよう取り組んでいる

問 ランドセル等の重量で小学生の3人に1人が「ランドセル症候群」という健康被害を危惧されているが、低学年児童の健康等への影響は。

答 授業で使用する教科書やその他の教材等が過重となり、児童が登下校時に重いランドセルを背負い続けることで、身体の健やかな発達に影響が生じかねないこと等が懸念されています。現在、市内小学校では、自宅に持ち帰る教科書等を少なくするとともに、児童が背負う荷物が過重にならないよう取り組んでいます。

問 ランドセルに代わる軽いリュックサックの使用を検討する考えは。

答 市内全ての小学校では、ランドセルの使用を義務付けていません。慣例的にほとんどの児童が使用していますが、軽いリュックサックを選択することも可能となっています。

問 今後、タブレットを家庭へ持ち帰ることを検討しているか。

答 持ち帰りについては令和4年度から行っていますが、背負う荷物の重さを考慮し、持ち帰る教科書を選んで、児童が背負う荷物を軽くするように取り組んでいます。

問 教育委員会では教職員の負担軽減のため、働き方改革推進に係る指針を令和4年度に改正しているが、令和4年度の時間外在校等時間の月平均は。

答 小学校では36時間39分、中学校では40時間58分です。

問 働き方改革推進に係る指針では、時間外在校等時間は1年間で360時間以内の上限となっているが、上限を超えていないか。

答 市立小中学校教職員全体の半数程度が1年間で360時間を超えている状況です。



山端 博
(明政一心会)

市道前谷地6号線 道路整備の進捗状況は 令和5年度は測量、設計を実施

問 市道前谷地6号線は主要地方道三沢十和田線へ向かう車両の交通量が非常に多く、道路幅員が十分でないため事故等も発生している状況であり、東地区の学区連合会やコミュニティ推進協議会からも拡幅の要望が出されていることから、安全対策の必要性が高い路線として歩道の設置や橋梁の拡幅を含めた道路整備事業を進めているようだが、その進捗状況は。

答 令和4年度から調査に着手しており、令和5年度は測量、設計業務を実施しました。今後は、用地取得や物件移転補償を進め、令和7年度から工事に着手し、令和9年度の完成を予定しています。

問 整備にあたり市道前谷地1号線を通行止めにするようだが、歩行者や自転車は横断可能なのか。

答 歩行者や自転車は横断可能です。

問 その安全対策は。

答 十和田警察署と協議の結果、横断歩道を設置することとしています。

問 市道前谷地1号線の通行止め対策として市道前谷地里ノ沢線を迂回路として整備するようだが、交差点の安全対策は。

答 左右の確認がしやすくなるよう隅切りを設置する予定です。

問 移住・定住に関する取組を実施する企業に対して、市が認定を行うなどして、企業と連携した移住・定住の取組を進める考えがあるか。

答 十和田市中小企業振興基本条例に基づく情報交換会の場において、中小企業等の意見を伺いながら、官民連携によりどのような効果が生まれるかを含め、調査、研究していきたいと考えています。